

玉造人工関節センター 開設5周年にあたって

－ センターのしくみと現状 －



人工関節センター長
小谷 博信

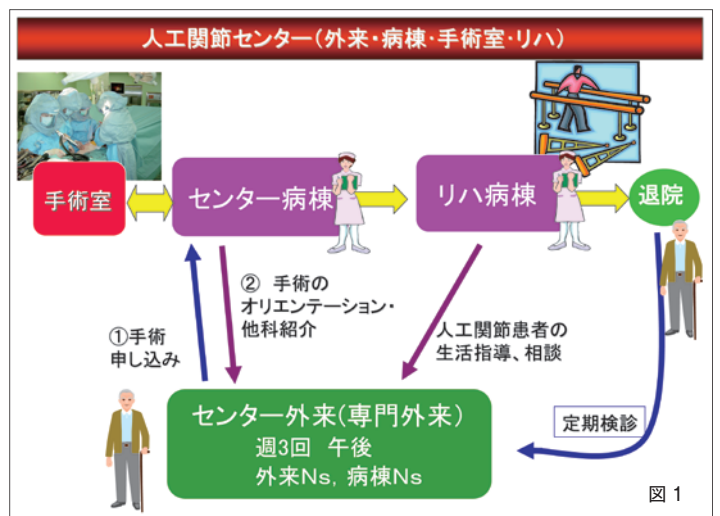
玉造人工関節センターを開設してから5周年を迎えました。開設以来の当センターの歩みと現在のセンターの仕組みを紹介します。

当センターは年々増加している人工関節手術に対応するために、2005年10月に開設し、その開設記念として市民講演会を、米国バーナセク先生をお招きして松江テルサで行い、約500人の市民の来場を得て、マスコミにも報道されました。

人工関節センターの目的は、外来から術前の身体状態の評価、合併症の対策、手術、リハビリテーション、術後経過の診療と一貫した体制を構築することにより、より充実した治療を提供することにあります。

当院では、センター病棟（手術病棟）、回復期リハビリ病棟を中心に、外来チーム、手術チーム、フォローアップチーム、教育チームを作り、それぞれが、機能的に連携しあって一貫した体制をとっています。

具体的には、専門外来で手術が必要と判断されると、外来ナースのみならず、手術病棟ナースも外来で患者さんの身体状態を把握し、合併症のチェックを行います。そして手術病棟に入院して手術を行います。手術病棟のナースは外来で患者さんの状態が把握できるので、入院してきたときの対応がしやすくなります。手術病棟で急性期が過ぎるとリハビリ病棟にて十分なリハビリを行ったのちに退院します。退院後には定期的な受診があります。そのときはリハビリ病棟のナースが外来で患者さんの生活指導や相談に応じます。このナースは患者さんの顔見知りなので、種々の相談など



がしやすくなり、好評です（図1）。

2006年3月には当院通算5000件（1973年に第1例を行ってから）の人工関節を達成して、その記念式典を2006年4月に当院ホールで行いました（図2）。また、2006年6月には、5000件記念の植樹としてモクレン（花言葉:持続性）を病院北側の庭に植えました。このように患者さんの数が当初から分かるもの、患者さんのデータを第1例からすべて病歴室のパソコンで管理しており、即座に取り出せるようにし



図2 5000例記念式典（4名の患者さんが5000例目です）



図3 病歴室でのデータ管理

ているため、診療に非常に有効に活用しております。現在（2011年1月末）で累計7003件になっております（図3）。

2006年6月から人工関節ラーニングとして（1泊2日）、人工関節手術の技術の習得を希望されるドクターを全国から募って、2ヶ月に1回のペースで開始しました（1回に2～4名）。その後、好評につき、1ヶ月に1回行うようになり、現在までに130名以上のドクターおよび30名以上のナースや理学療法士などが参加されております。人工関節という先端の医療技術のレベルアップに貢献できればよいと考えております（図4）。

患者さんとその家族の会として「人工関節友の会」



図4 ラーニング（パソコンで討論中）



図5 人工関節友の会（2007.4）

が2007年4月に発足し、講演会と座談会・アトラクションを行う「友の会の集い」を年に一度開催しています。この会は患者さんがお互いに励ましあったり、気楽にドクターと話ができる場として、患者さんの生活の質の向上を目的としており、今年で4回目となり、参加希望者も多く今年は160名の参加があり、同窓会的なごやかな雰囲気で行われました（図5）。

また、自分の人工関節のレントゲン写真をパスポートサイズまたはクレジットカードサイズにした「人工関節写真カード」を2007年1月から提供しています（有料）。これは空港での検査などに有効に活用されて好評を博しています（図6）。



図6 人工関節写真カード

2010年10月にはセンター5周年記念の市民講座として、名誉院長の上尾豊二先生の講演、歌手のダ・カーポの3名（その一人が股関節の手術を受けている）を交えた体験談の座談会およびミニコンサートを約450名の参加を得て、松江テルサで行い、その内容はマールテレビで放送されました（図7）。

人工膝関節と股関節患者さんの日常生活を中心にQ&Aや自主訓練プログラムを写真と一緒に分かりやすく解説した小冊子を、リハビリスタッフを中心に作成し販売しており、好評を得ています（図8）。

以上、当人工関節センターで行ってきたことの概要を紹介しました。今後とも最新の医療をより充実して的確に、より安全に提供できるよう努力していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



図7 5周年記念市民講座：当院スタッフとダ・カーポの座談会



図8